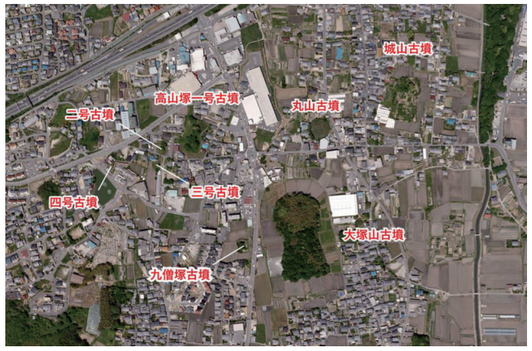
史跡大塚山古墳群保存活用計画
概要版

史跡大塚山古墳群について

史跡大塚山古墳群は（以下、古墳群）は、奈良盆地の諸河川が合流する地点の南側、河合町大字川合、穴闇（なぐら）に所在する古墳群です。前方後円墳３基（大塚山古墳、城山古墳、高山塚１号古墳（中良塚古墳））、円墳４基（丸山古墳、高山塚２号古墳、高山塚３号古墳、高山塚４号古墳）、方墳１基（九僧塚古墳）の計８基からなる古墳群で、昭和31年12月28日に国史跡に指定されました。



保存活用計画策定の目的

古墳群を適切に保存しながら次世代へと確実に継承していくため、史跡の持つ本質的価値と構成要素を明確にし、それらを適切に保存・活用していくための方向性や方法、保存管理の取扱基準などを定めるため、この計画を策定しました。

史跡の本質的価値について

古墳群が指定されたときの説明文から、大塚山古墳群が持つ本質的価値を以下の通りに整理しました。

①馬見丘陵の東北に続く低丘陵端に位置する古墳群である。大型前方後円墳を中心に前方後円墳、方墳、円墳により構成された古墳群で、大和地方における古墳群の一示例として学術上重要である。（昭和31年12月28日史跡指定時の説明文より）

→古墳群の立地が奈良盆地西側に位置する馬見丘陵の北端であることや、諸河川が合流し大和川となり河内平野へ流れる場所であること、古墳群の築造時期も古墳時代中期から後期初めと大きな時期差がなく一挙に築かれたものと考えられていることから、歴史を考えていく上で重要であるとしています。

②古墳群の主体を成す大塚山古墳は、主軸の長さが約190mを有する壮大な墳丘を成す大型前方後円墳である。堀の跡を留めるなど保存の状態も良好。（昭和31年12月28日史跡指定時の説明文より）

→古墳群の中心である大塚山古墳は全長197mを測り、周囲には濠が廻っていた様子が現在も見ることができます。その保存状況の良さも本質的価値のひとつです。

大　綱

古墳群の築かれた河合、歴史的背景を知り、学んでいく
地域の生活と共にある古墳群として共に護っていく

◎大塚山古墳群は、奈良盆地内の同時期の古墳のなかで、最大級の大きさを誇る大塚山古墳や城山古墳を有しているという特色があります。また、大和川沿岸にいくつもの古墳が築かれていたことや、周辺遺跡の様子から大和川の水運に関連した集団が生活していたと考えられ、河合町の歴史を考えるうえで大きな価値があります。そこで古墳群を知るきっかけをつくり、古墳群を「見て・触れて・感じて」もらう体験をするための環境を整えます。また現在でも地域の身近なところに存在する大塚山古墳群を、地域の誇りや財産として地域住民と協働して愛してもらえる活動を促進していきます。

基　本　方　針

保存管理

古墳群の本質的価値を確実に保存し、将来にわたり継承していくことを第一とし、古墳群の立地や自然的景観としての価値を保全していきます。

整備

地域住民の生活と調和しながら各古墳の保存を第一に考え、各種調査によって得られた成果から各古墳の歴史的価値が実感できるような整備を段階的に行っていきます。

活用

継続的な調査研究を行い、古墳群の価値を高めるとともに、その成果を保存・整備に活かしていき、地域住民や見学者などあらゆる世代に対して、史跡の価値を様々な形でわかりやすく発信していきます。

運営・体制

事業を進めるため、河合町教育委員会事務局生涯学習課を中心に関係部局・関係機関・地域等が連携しながら、地域に根ざした古墳群の保存と活用および整備を進めていきます。

←『大塚博士』（大塚山古墳イメージ）
河合町文化財キャラクター

編集・発行：河合町教育委員会事務局　生涯学習課　〒636－0053
令和５（2023）年３月発行　奈良県北葛城郡河合町池部2-13-1